

大学等におけるフルタイム換算データに関する調査（FTE調査）

分析手法の検討について

- ✓ 保健分野における研究時間と論文生産数との相関について

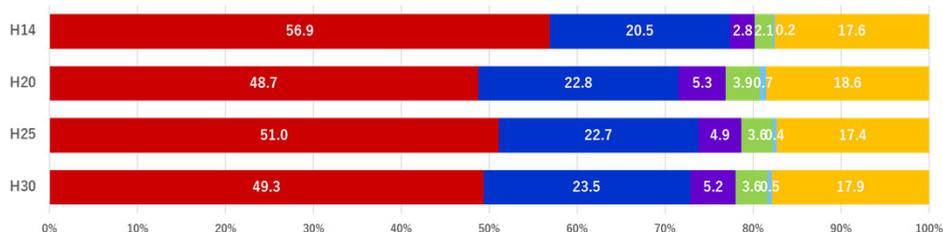
検討事項

- 保健分野における研究時間と論文生産数との相関
について

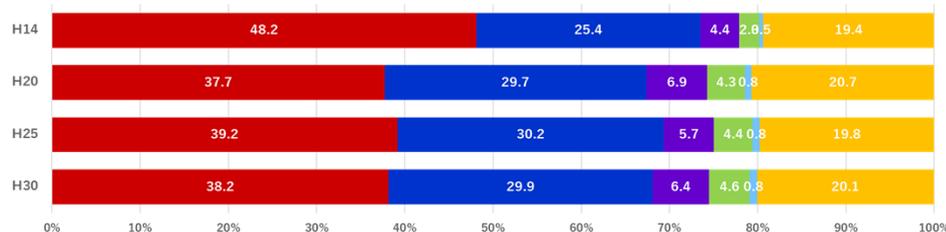
検討事項 - 保健分野における研究時間と論文生産数との相関について

- H14調査からH20調査にかけて、いずれの分野でも研究時間割合が減少。
- H20調査以降は、保健分野では引き続き研究時間割合が減少しているが、保健分野以外の分野では、大きな変化は見られない。

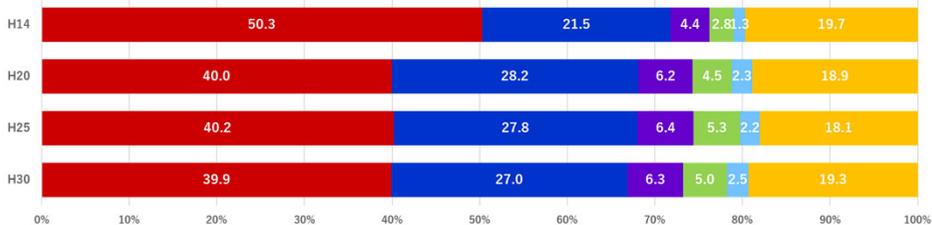
理学（研究+0.6% 教育+0.7% 社会△0.6%）



工学（研究+0.5% 教育+0.2% 社会△0.2%）



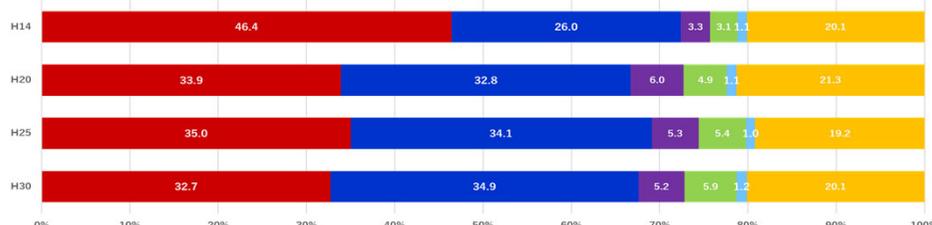
農学（研究△0.1% 教育△1.2% 社会+0.8%）



保健（研究△9.0% 教育+2.3% 社会+8.8%）



人文・社会科学（研究△1.2% 教育△2.1% 社会+0.3%）



■ 研究活動 ■ 教育活動 ■ 社会サービス活動 (研究関連) ■ 社会サービス活動 (教育関連) ■ 社会サービス活動 (その他：診療活動等) ■ その他の職務活動 (学内事務等)

カッコ内はH20調査とH30調査の比較

⇒一方で、保健分野（臨床医学）に係る論文数は増加*しており、論文数のシェアにおいても他分野と比較して、減少幅は小さい。

(*13,489本 (2007→2009) → 17,228本 (2017→2019):分数カウント)

今回ご議論・ご検討いただきたい観点：

- 今後、全体の研究時間割合を分析・公表していくにあたり、保健分野特有の事情をどのように鑑みて、分析結果を公表していくべきか。
(ex.保健分野内の特徴の異なる小分野を区別すべきか、またどのように区別するか etc..)
- 保健分野の職務時間割合の推移を見ていくにあたり、研究時間割合の減少と論文生産数の増加との関係をどのように捉えるべきか。

(参考)

FTE調査において、大学等における「教員」で保健分野に従事する者は
⇒教授、准教授、助教及び講師であり、組織として保健分野に所属している者

一方で、

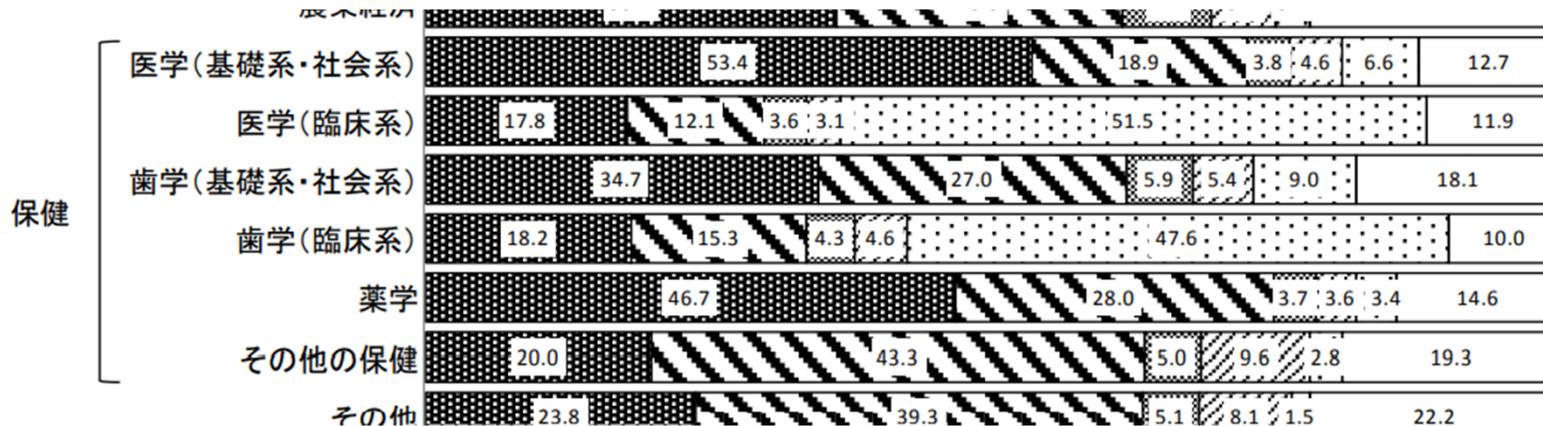
- 組織としては保健分野に属さないが、保健分野の論文を創出している者
- 組織としては保健分野に属すが、診療を主な職務としている者
(研究メインだと「研究活動」時間割合が、診療メインだと「社会サービス活動（その他）」が増える。

の存在がある

そこで、組織別の分野による集計ではなく、回答者の専門分野別の集計結果を
見てみる

検討事項 - 保健分野における研究時間と論文生産数との相関について

(参考)



医学、歯学分野において、「**基礎系・社会系**」と「**臨床系**」とでは**研究時間割合に大きく差が見られる**ことが分かる。「**基礎系・社会系**」では、研究時間の割合が大きく、研究を軸として職務を行っていることが分かるが、「**臨床系**」では診療時間の割合が大きく、診療活動が軸となっていることが見て取れる。

⇒研究活動時間の割合が大きい分野は、「**医学（基礎系・社会系）**」、「**歯学（基礎系・社会系）**」、「**薬学**」。

検討事項 - 保健分野における研究時間と論文生産数との相関について

(参考)

- H30調査における、組織の学問分野別の大学等教員数の割合を示したものが下図。
→保健分野は全体の34.1%(推定母集団数では、65,585人/192,334人)を占めており、
教員全体の職務時間割合に及ぼす影響は少なくない。

